

環境設定



BRICSCAD



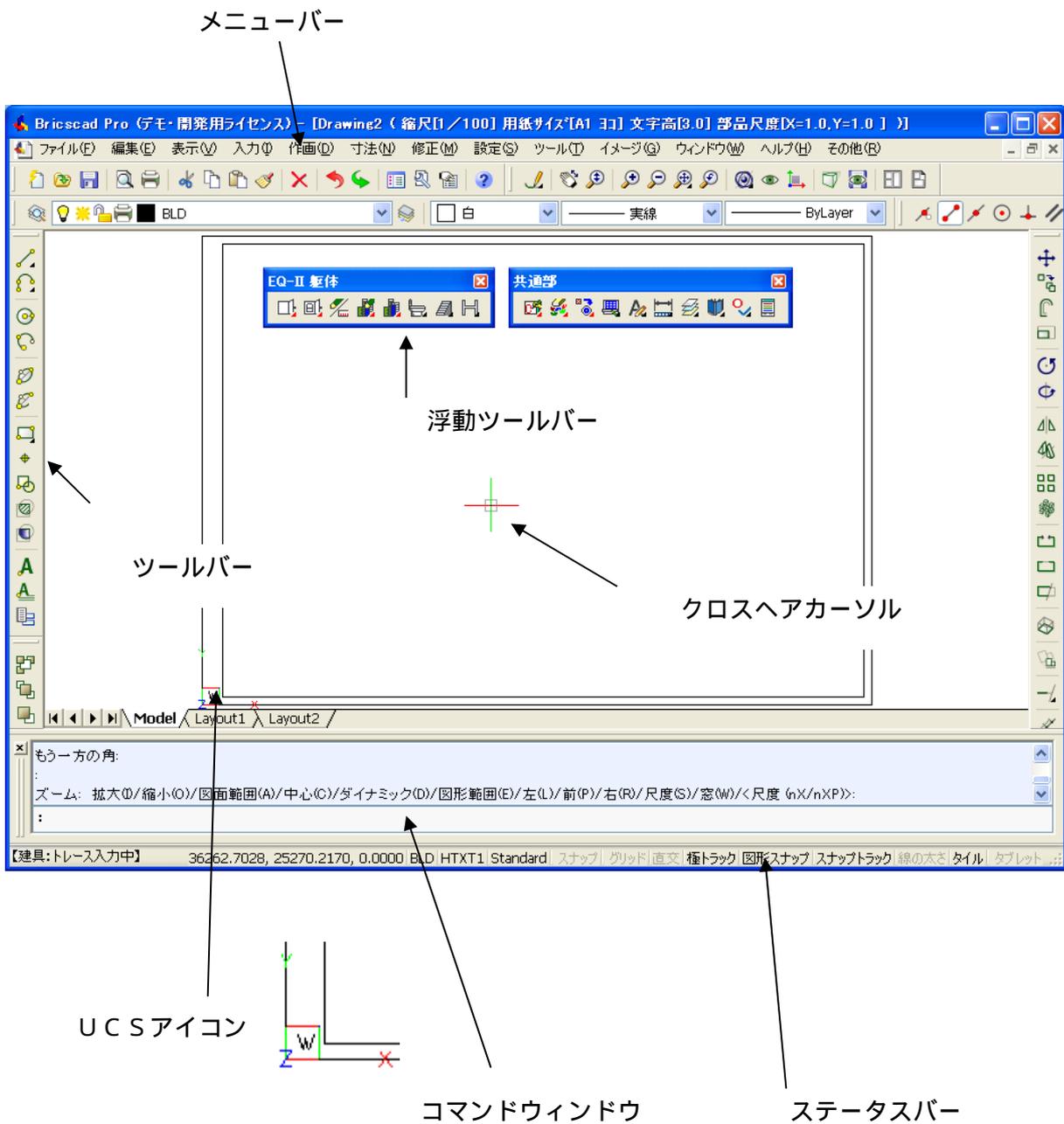
第 2 版

ひろぎんITソリューションズ株式会社

目 次

Bricscad の画面について	2
画面の背景色の設定方法	3
自動保存の間隔設定方法	4
ファイル自動保存フォルダ (パス) 変更方法	5
自動保存ファイルをDWGに変更する方法	6
図形選択時のボックスサイズを変更する方法	7
マウスの設定方法	7
図形スナップの設定方法	8
極スナップの設定方法 (極角度・極追加角度)	9
スナップトラック (AutoTRACK) の設定方法	11
テキストスクリーンの表示・非表示方法	11
コマンドバー・ステータスバー・スクロールバーの表示・表示方法	12
ダイナミック入力の設定方法	13
ファイルをドラッグ&ドロップする時の動作の切り替え	14

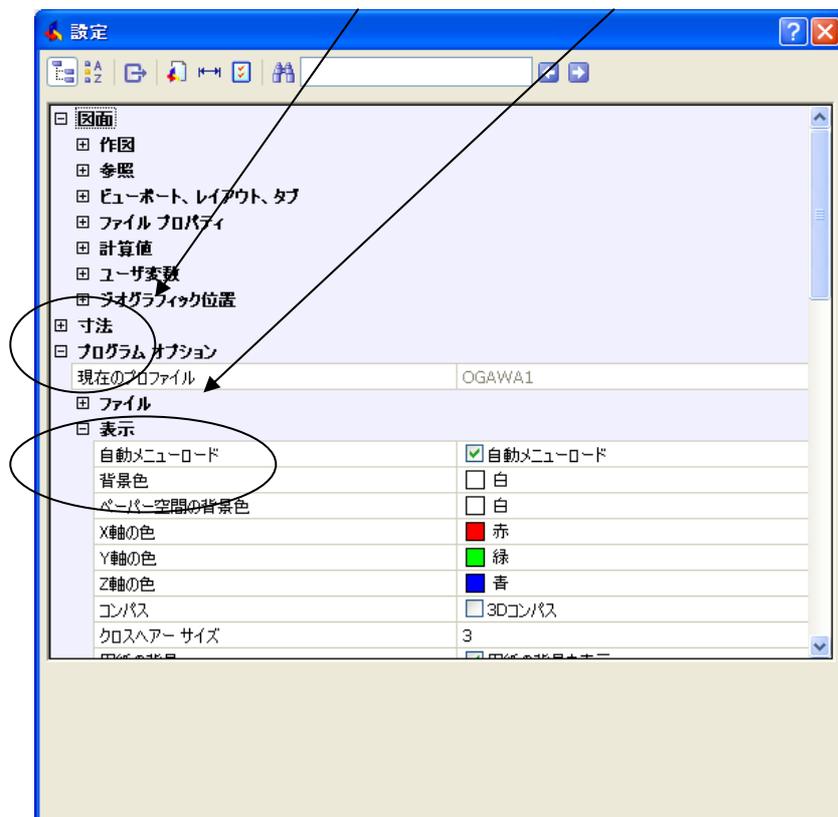
Bricscadの画面について



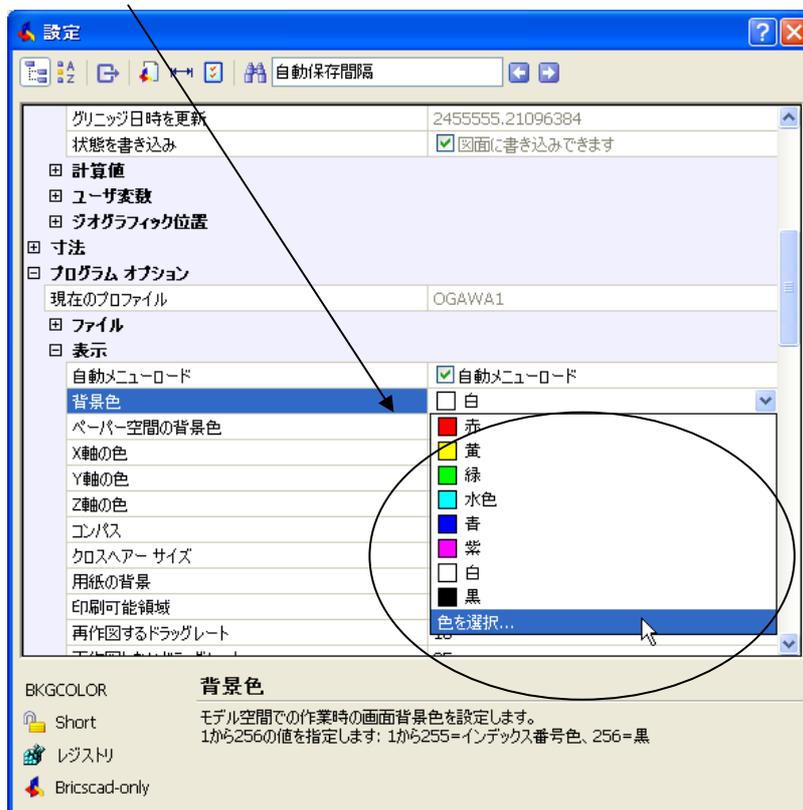
- メニューバー プルダウン方式でメニューが表示されます
- ツールバー アイコンでメニューが表示されます
- 浮動ツールバー ツールバーが浮動の状態が表示されます
- コマンドウィンドウ コマンドが実行されメッセージが表示されます
- ステータスバー 直行モード、極トラック、スナップ、ダイナミック入力などのモードが表示されます
- UCSアイコン 図面の方向を表します。主に3次元データを作成するときに使います
- クロスヘアカーソル 図形を選択したり、位置を表示したりします

画面の背景色の設定方法

メニューバーの「設定」 - 「設定」 - 「プログラムオプション」 - 「表示」 - 「背景色」



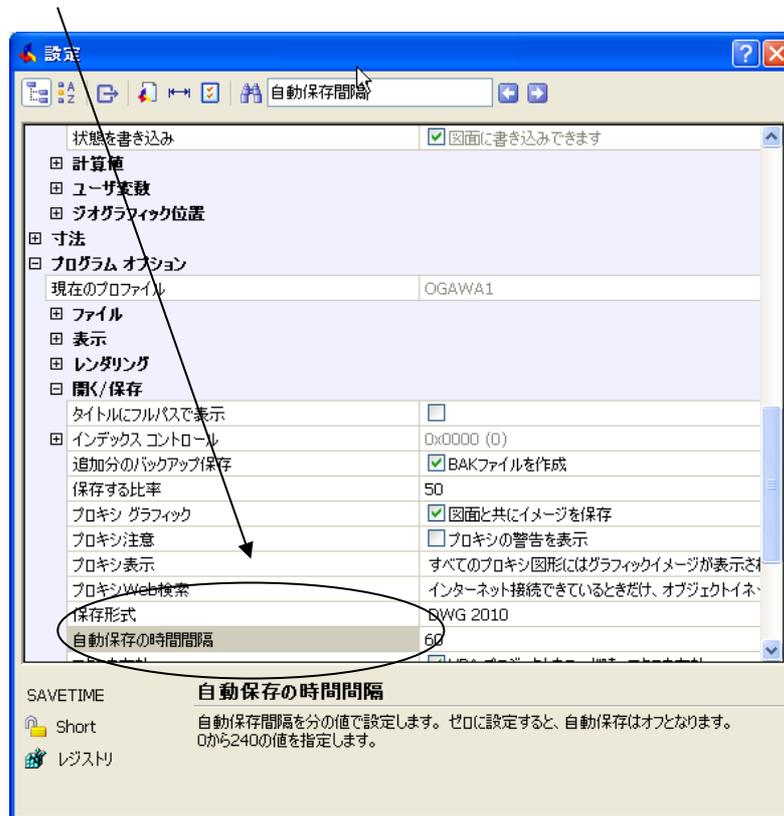
色をダブルクリックすると下図のように色を選択できます。「色を選択」をクリックするとパレットが表示されます。



自動保存の間隔設定方法(異常終了時の保存間隔)

- メニューバーの「設定」 - 「設定」 - 「プログラムオプション」 - 「開く / 保存」
- 「自動保存の時間間隔」をクリック

自動保存の時間間隔の項目に移動します。



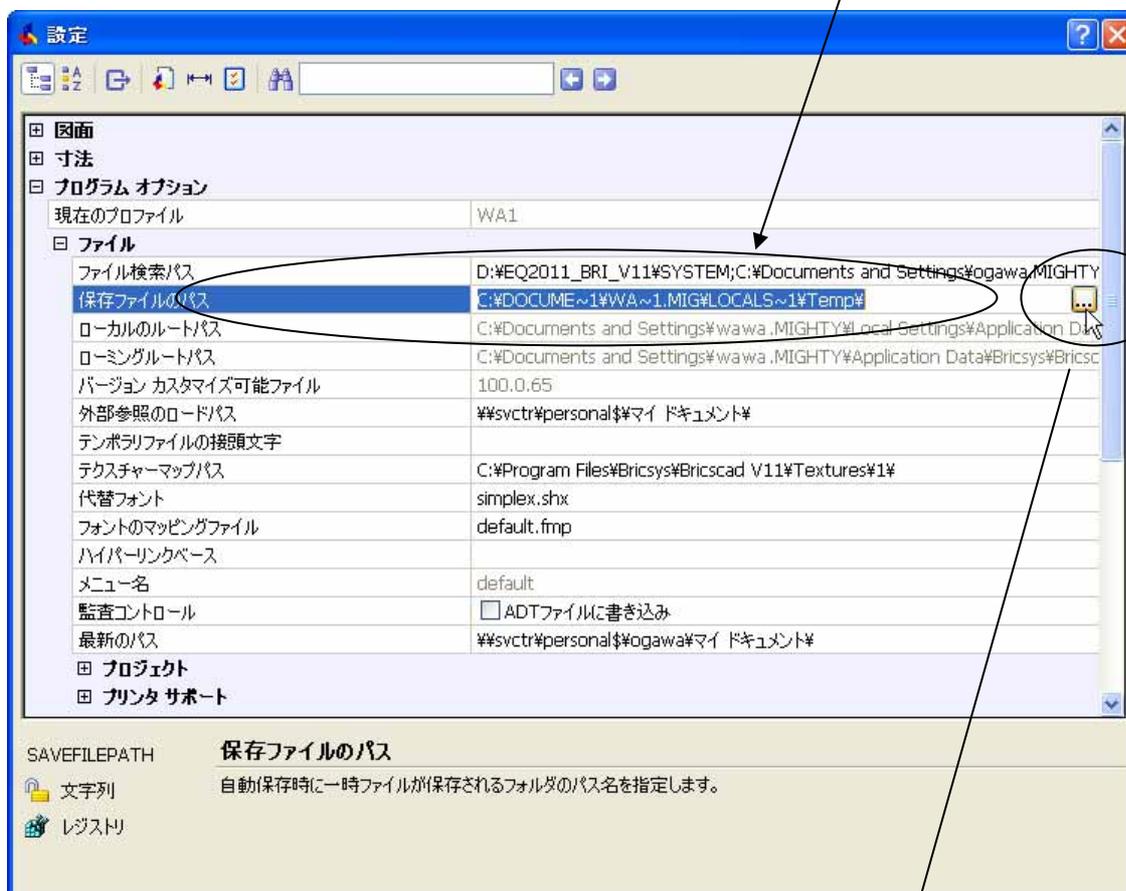
この値を変更することによって自動保存の間隔を変更することができます。
プログラムが異常終了した場合や落雷などにより電源が落ちた場合などに
前回自動保存した状態まで図面データを復元することができます。

初期値は60分です。(分単位で設定可能です。)

ファイルが保存される場所・自動保存ファイルの名前の変更方法は5～6頁を
参照して下さい。

ファイル自動保存フォルダ(パス)変更方法

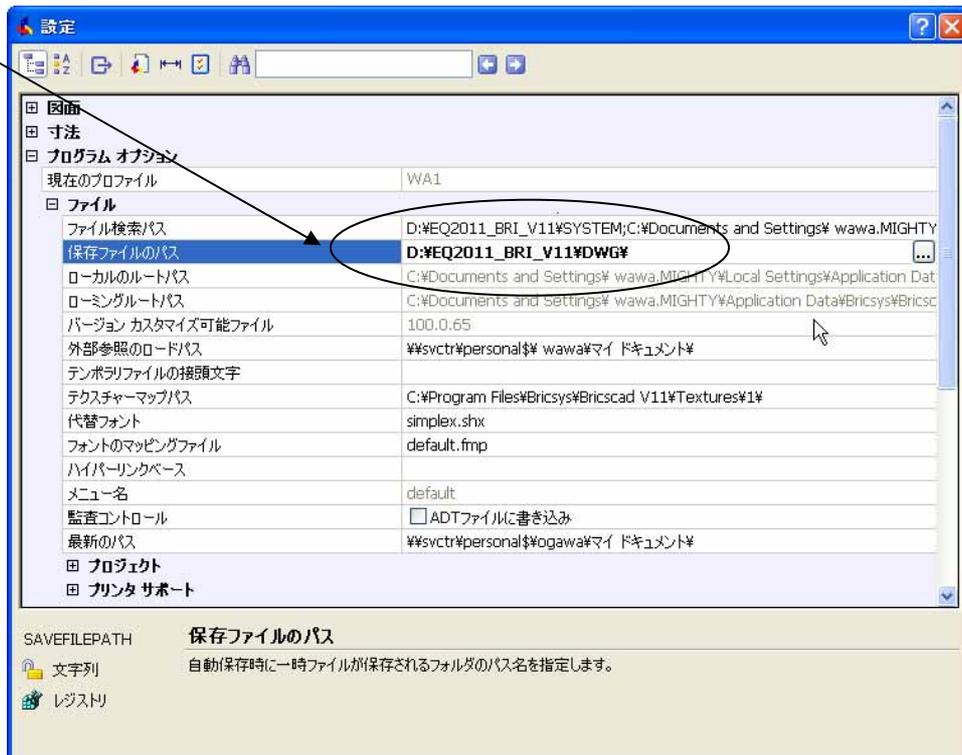
メニューバー - 「設定」 - 「設定」 - 「プログラムオプション」 - 「ファイル」
「保存ファイルのパス」の項目をクリックして変更を行います。



デフォルトの保存フォルダの階層がかなり深くなっておりましてパス設定ををしておして保存するフォルダを変更することをお勧めします。

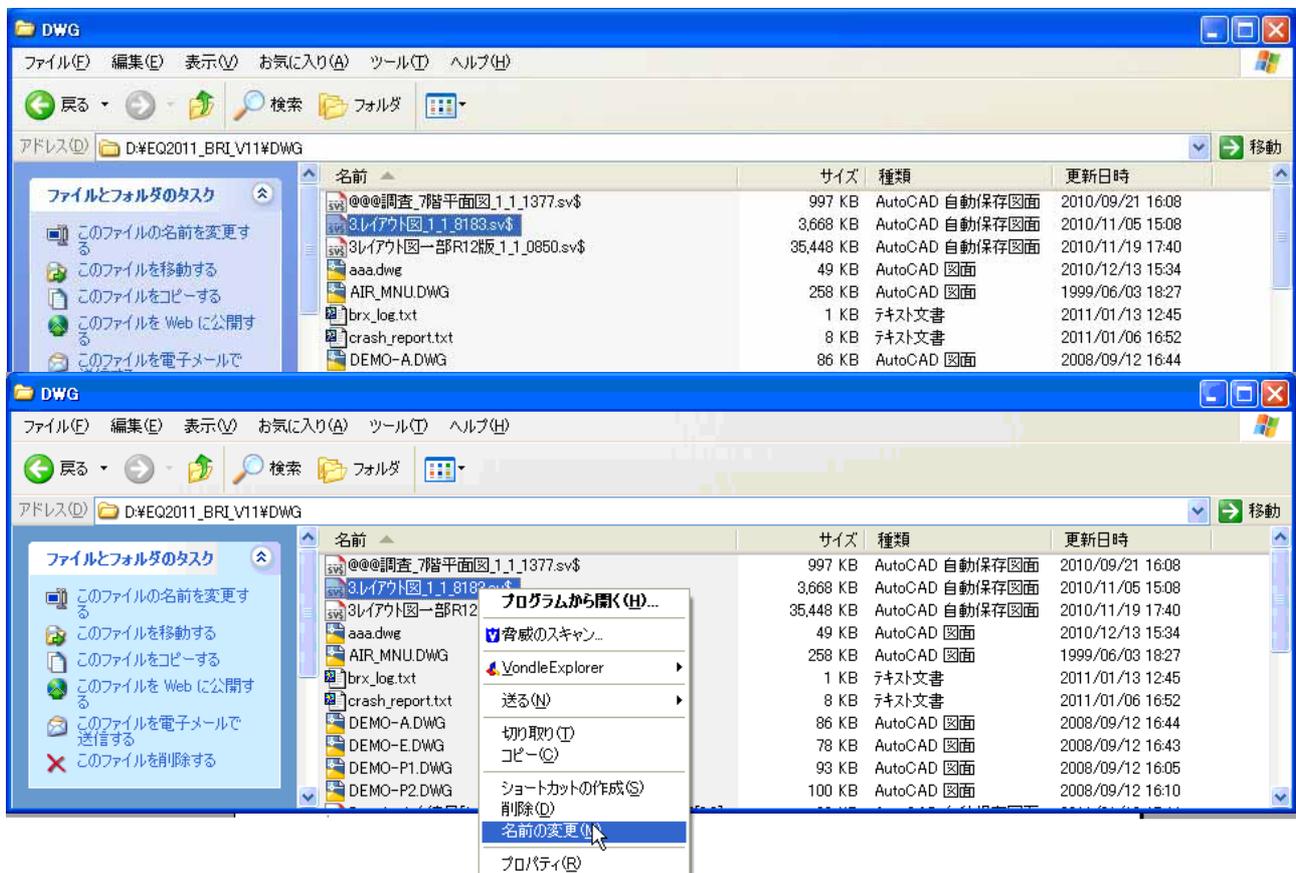


変更例：



自動保存ファイルをDWGに変更する方法

プログラムが異常終了した場合は、ファイルの自動保存フォルダ変更で設定したフォルダ（5頁）に下記のように拡張子がSV\$のファイルが作成されます。（拡張子を表示する設定をして下さい）
ファイル名と日時を確認後、名前と拡張子をdwgに変更して通常データとして開いて下さい。



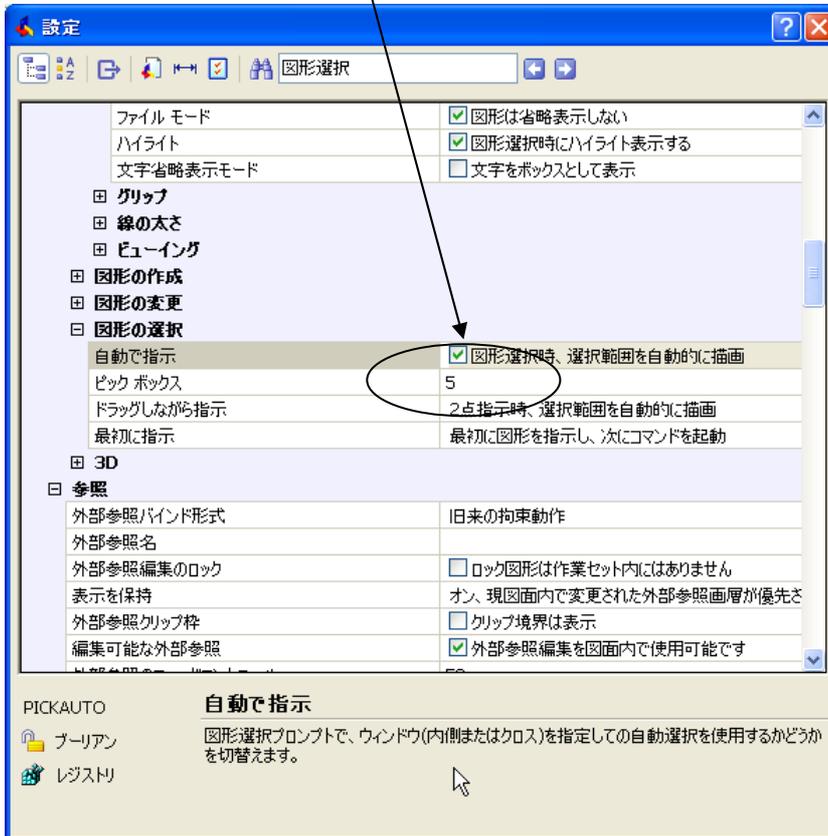
図形選択時のボックスサイズを変更する方法

図形を選択する時に、検索範囲のボックスのサイズを設定出来ます。

メニューバーの「設定」 - 「設定」 - 「プログラムオプション」 - 「選択」

- 「ピックアップ」の項目を選択してサイズを変更します。

サイズの調整は、プレビューに表示されます。



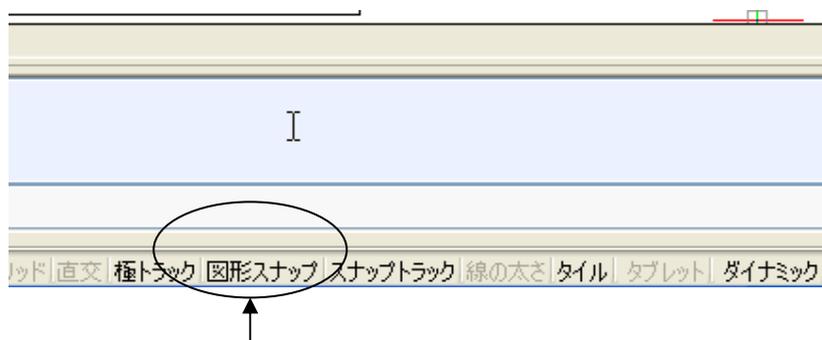
マウスの設定方法

マウス/キー	操作	結果
マウスホイール	スクロール	拡大/縮小
ホイールボタン(**)	押しながらマウスを動かします。	リアルタイム画面移動
ホイールボタン(**)	ダブルクリック	図形範囲を表示
Ctrl + Shift + 左ボタン	押しながらマウスを動かします。	ズームイン/アウト
Ctrl + Shift + 右ボタン	押しながらマウスを動かします。	リアルタイム画面移動
Ctrl + 左ボタン	押しながらマウスを動かします。	リアルタイムに3D回転します
Ctrl + 右ボタン	押しながらマウスを動かします。	Z軸を基準に回転します

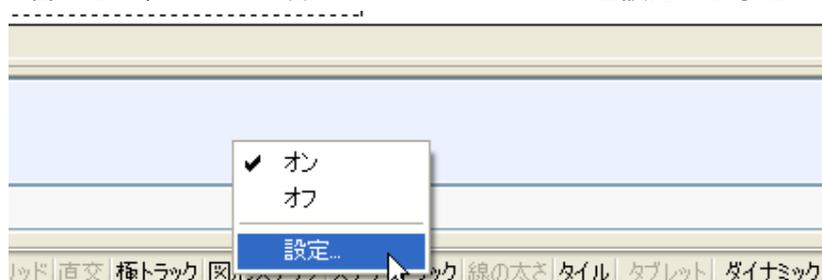
Bricscad ではマウスのカスタマイズは出来ません。但し、ホイールの速度の設定は可能です。詳しくは、オンラインヘルプを参照下さい。

図形スナップの設定方法

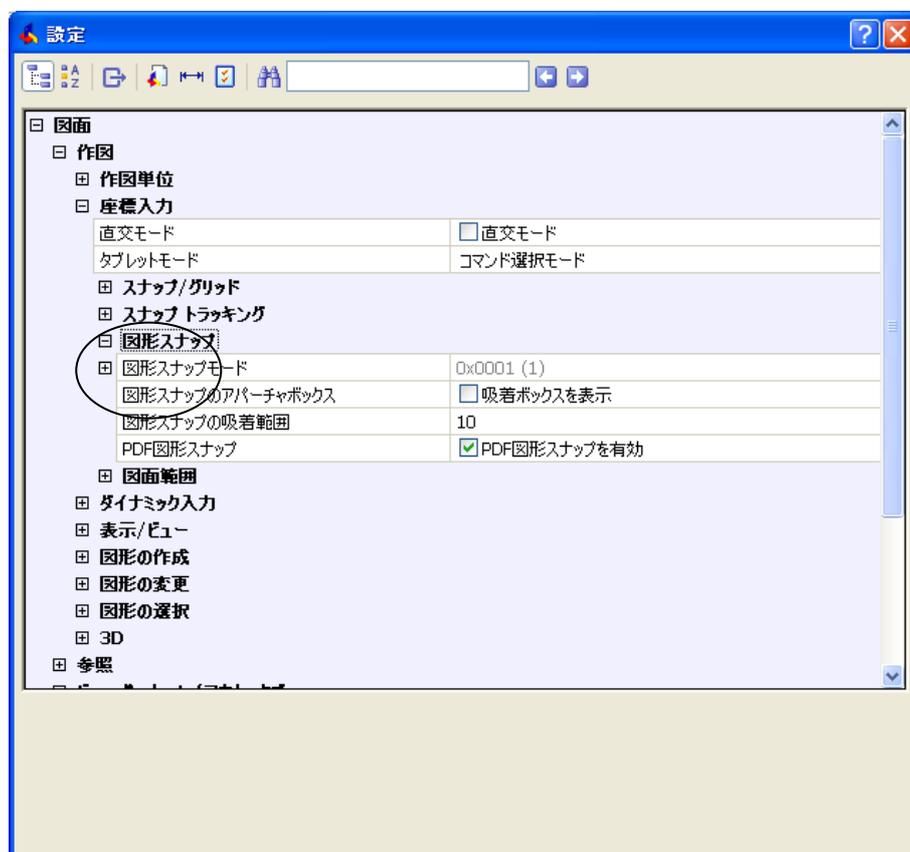
図形スナップは、オブジェクトの正確な位置を指定するために使用します。
たとえば、円の中心や、線分の端点、中点などを指示することができます。



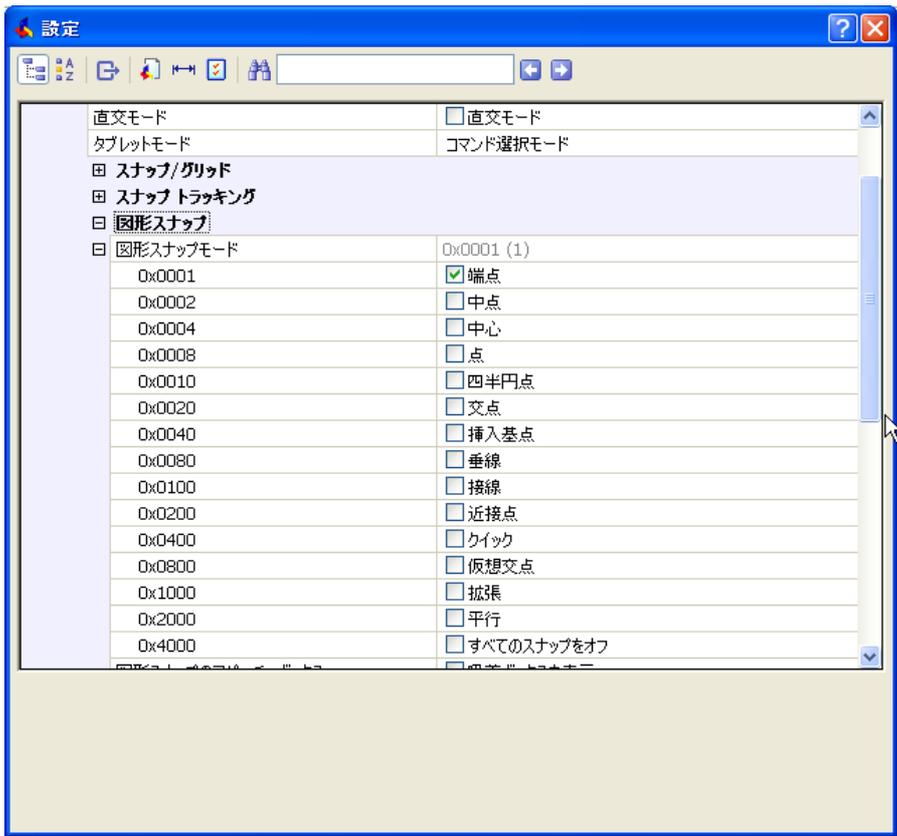
ステータスバーの「図形スナップ」でオン・オフまたは設定を行います。
カーソルを合わせて、マウスの右ボタンをクリックすると設定が表示されます。



図形スナップモードをクリックして下さい。



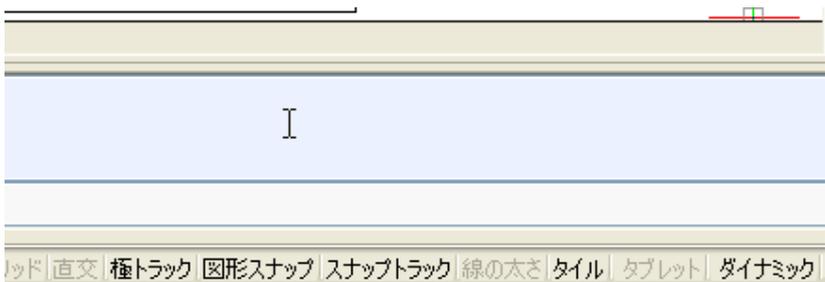
図形スナップ一覧が表示されますので、必要なスナップにチェックを付けます。
 詳しくは、オンラインヘルプを参照下さい。



終了する場合、ダイアログボックスを閉じます。

極スナップの設定方法

極スナップは、任意の角度を設定して線分を作図したりすることができます。
 ステータスバーの「極トラック」をクリックしてオン・オフを行います。



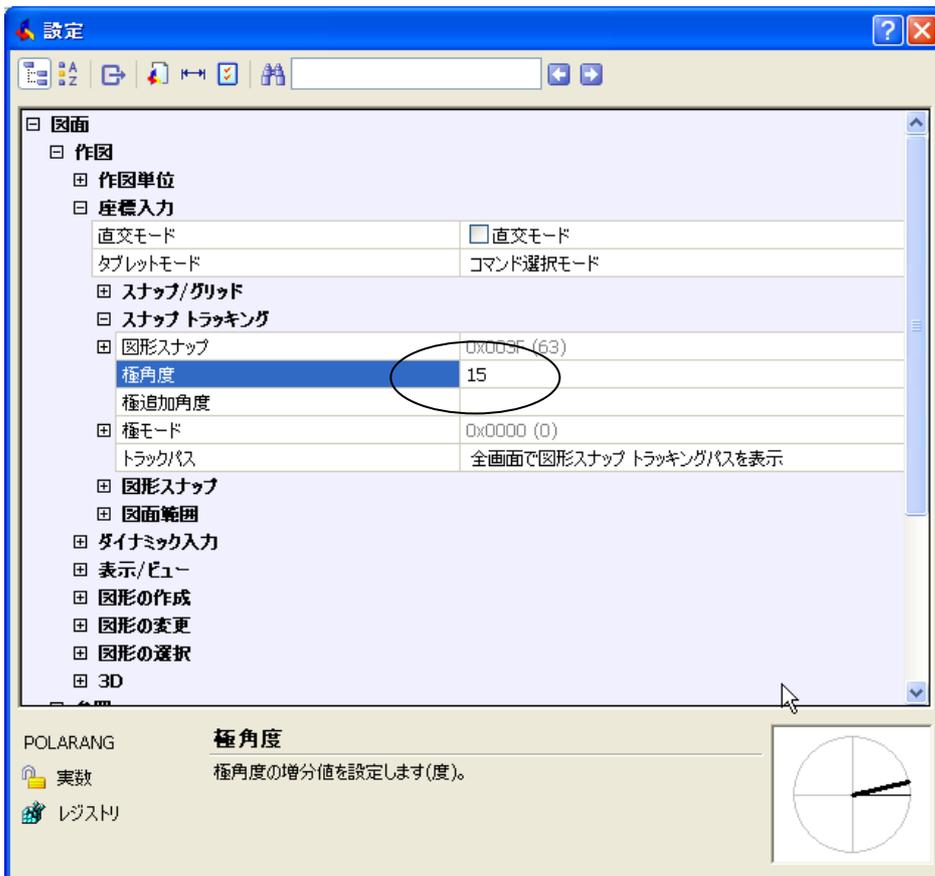
角度の設定は設定で行います。



極角度の項目には任意の値を入力することが可能です。

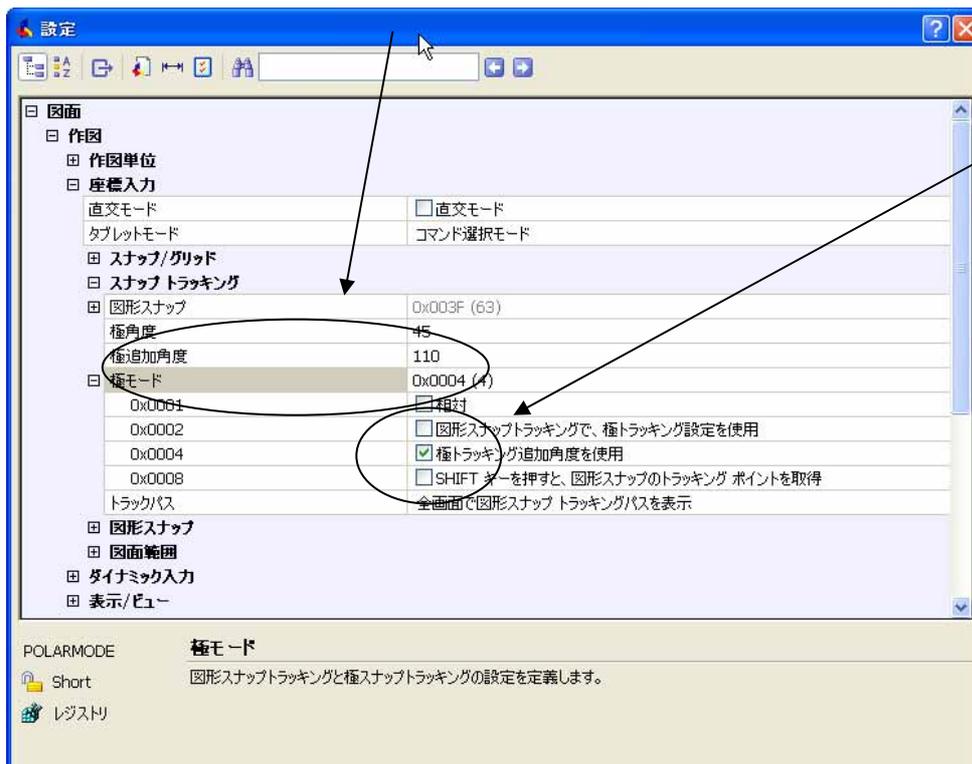
極角度には増分値の設定を行えます。

下図の例のように15と入力すると、15度、30度、45度...とトラッキングされます。



極追加角度

極追加角度は増分されません。入力した値のみトラッキングされます。



極追加角度を有効にしたい場合は、極トラッキング追加角度を使用にチェックを付けます

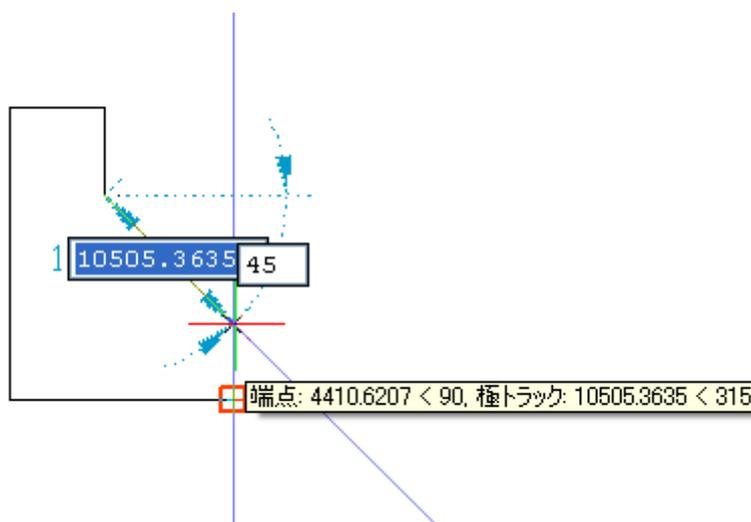
スナップトラック(AutoTRACK)の設定方法

極トラックと図形スナップをオンにしてスナップトラックをオンにするとあらかじめ設定した角度の位置にカーソルが来ると、直前に指定した点から現在のカーソル位置の相対座標が表示されます。

最適な一時作図補助線を自動的に表示し正確に点を認識することが可能出来ます。



例：オブジェクトスナップ 端点 極トラック 45 度に設定した場合



最後に指示した点より、-45度下がった位置で端点より90度上がった位置を正確に認識することが可能です。

テキストスクリーンの表示・非表示方法

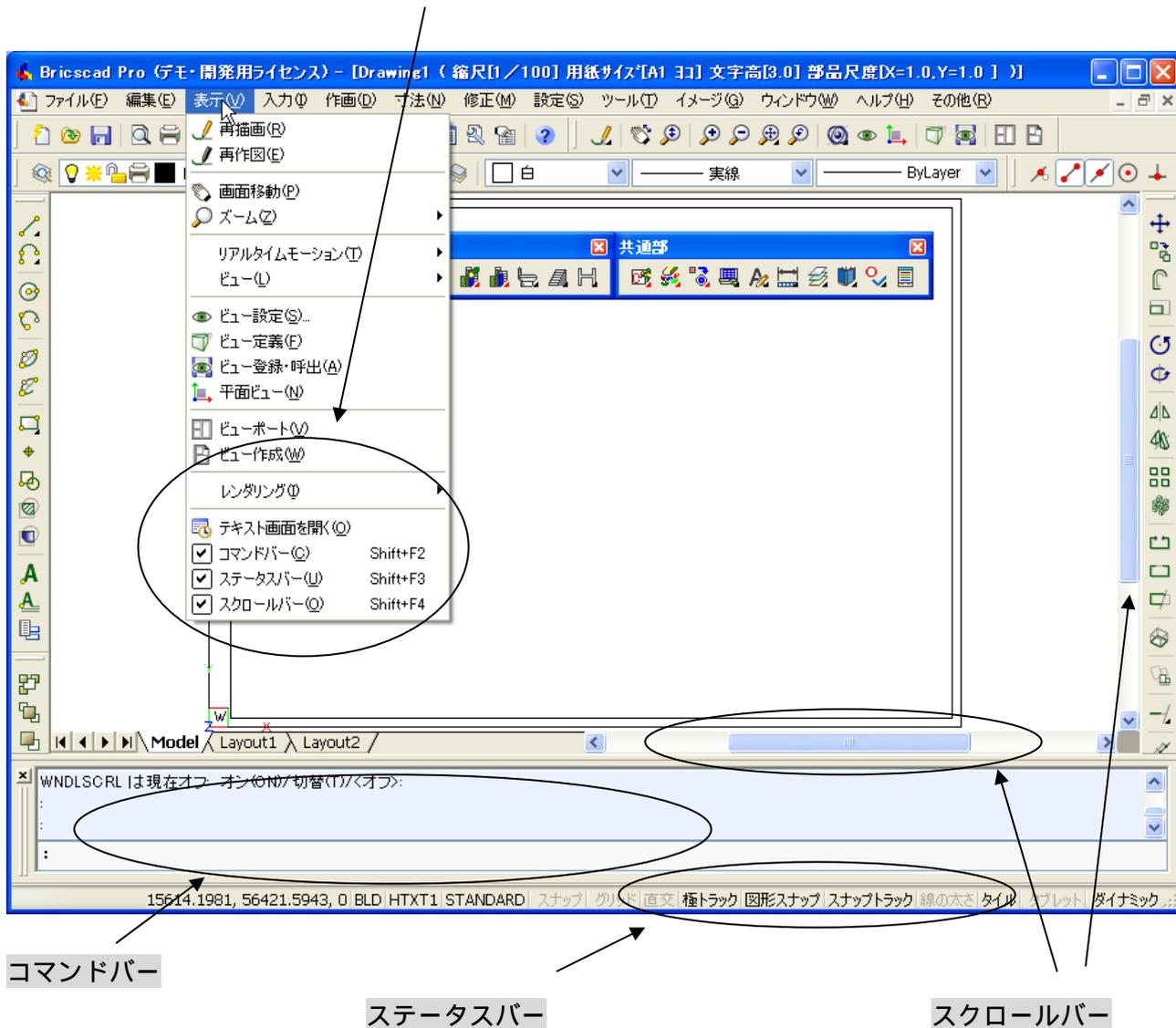
テキストスクリーンは、メッセージを確認したり、履歴を確認したり、さまざまな情報がテキストで表示されます。

F2キーを押すと、テキストスクリーンが表示されます。

もう一度F2を押すか、「×」(閉じるボタン)で非表示になります。

コマンドバー・ステータスバー・スクロールバー

コマンドバー・ステータスバー・スクロールバーの表示・非表示はメニューバーの「表示」にあります。チェックを付けるとオン外すとオフになります。



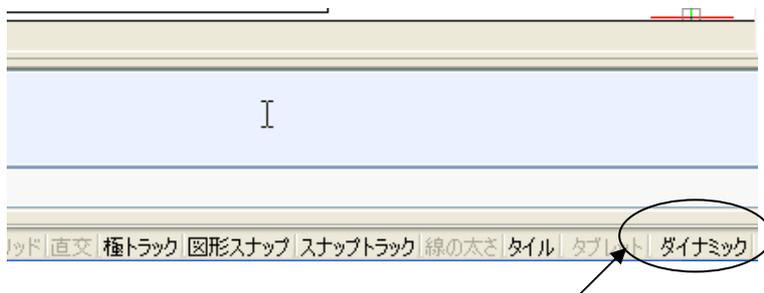
コマンドバーは通常オンにして下さい。

コマンドバーをオフにしてしまうと、ダイナミック入力をオンにしない限りメッセージがステータスバーの右側にのみの表示となりますので注意して下さい。

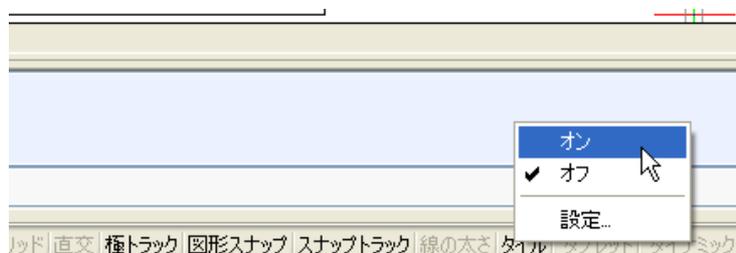
(ダイナミック入力に関しては次ページを参照して下さい。)

ダイナミック入力

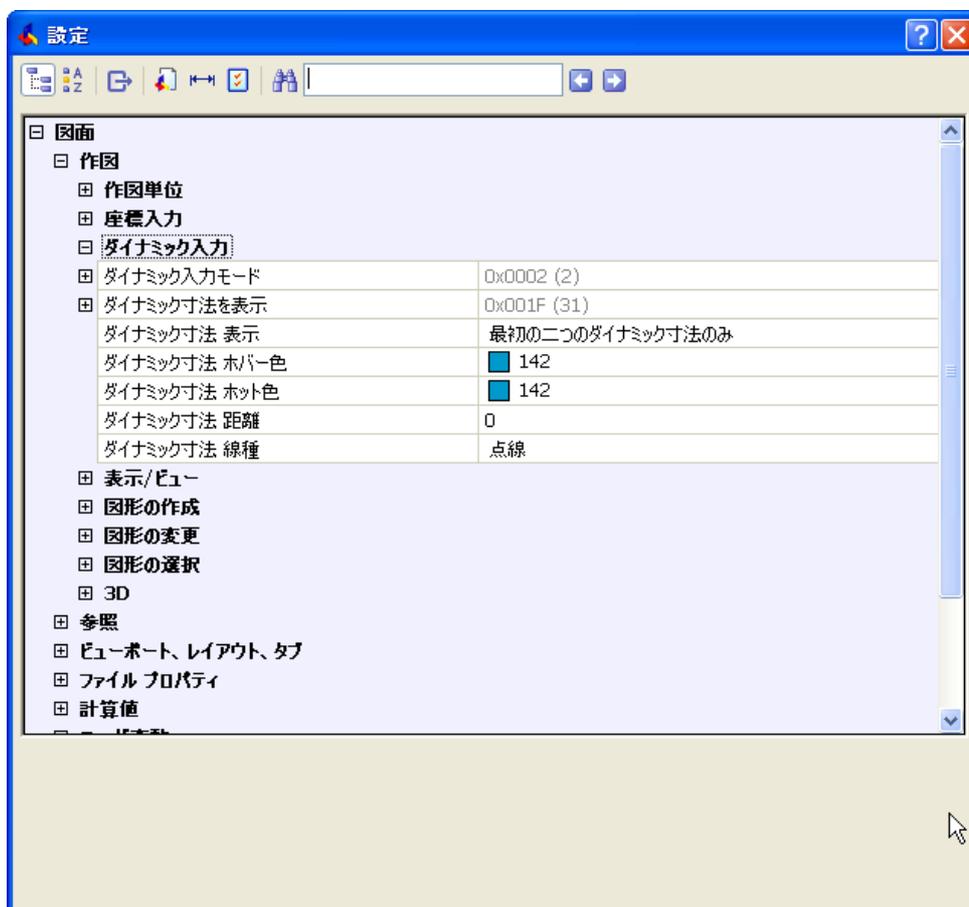
ダイナミック入力をオンにすると、作図画面に必要なメッセージが表示されコマンドプロンプト領域をその都度見なくても、作図が可能になります。



ステータスバーのダイナミックでダイナミック入力の設定を行います。
マウスの右ボタンでオン・オフを行います。



設定をクリックしますとダイナミック入力の詳細設定が可能です。



ファイルをドラッグ&ドロップする時の動作切り替え

エクスプローラーまたは、マイコンピュータから図面ファイルをドラッグ&ドロップした場合、現在の図面にファイルを挿入するか、開くかの動作が設定できます。

メニューバーの「設定」 「設定」 「プログラムオプション」 「システム」 「ファイル ドラッグ」の項目を選択して変更します。「ファイルを入力」するか「ファイルを開く」を選択します。

「ファイルを入力」が図形挿入になります。

検索で、「ファイル ドラッグ」と入力すると検索できます。

